業績リスト(過去3年)

* (1. 著書	2. 論文)	3. 訳書	4. 研究ノート	5. 書評
6. 調査報告書	7. その他文筆活動	8. 作品発表	9. 学会発表	10. 講義・講演
11. テレビ・ラジオ等出演	12. 公的活動	13. 研究助成採択	14. その他	

* (1. 著書 2. 論文)は別途掲載

清水 凌平 (しみず りょうへい) [子ども教育学科 助教]

2022年

9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する探究学習およびグルーピングに関する研究. 2022年度日本理科教育学会近畿支部大会. 大阪教育大学(オンライン). 2022年11月

10. 講義・講演

- 清水凌平. 新しい時代における教師力の姿. 愛知県立一宮高等学校 第1回SSH課題研究教員研修会. 愛知県立一宮高等学校. 2022年6月

13. 研究助成採択

研究代表者	研究助成者	研究題目	研究年度	助成金額 (万円)	分担者 (含他所属)
清水 凌平	清水 凌平	「令和の日本型学校教育」における資質・能力およびそれを育む探究学習に関する研究	令和4年度	143	
			令和5年度	143	
			概要 (薫英研究費・無)		
中央教育審議会は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を示している。これにあたって、学習者の個性や能力、強みに焦点化することが肝要である。しかしながら、子供の個性・能力などをめぐっては、①個性などの把握が教師の主観的・経験的な視点から行われている現状、②協働学習において小集団を組む際に、個性などの多様性を担保する難しさ、③学習者の個性などが包括的に発揮される実践例が僅少であること、などの問題が挙げられる。本研究ではMI理論に基づく可視化、グルーピング手法や自由度の高い協働的な探究プロセスを用いることで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化実現に向けた理論・実践基盤の形成を目指す。					

2021年

9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. 協働的な学びにおけるマルチプル・インテリジェンス理論の有効性の検証. 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会. 京都教育大学(オンライン). 2021年11月

12. 公的活動

- 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会 大会事務局

2020年

9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. ホリスティックな学びの視点からみる マルチプル・インテリジェンス理論の有効性. 日本理科教育学会第70回全国大会. 岡山大学(紙面発表). 2020年8月